

絆 ニッポンの力 ～地域が原点～

(討議資料)

自由民主党千葉県第六選挙区支部長
前衆議院議員/元経済産業副大臣

ひろみち通信

いまこそ政治の責任を果たす時!



原発事故—政府は国民の安心・安全のために

- 原発事故の早期収束を!
- 継続的な健康調査を実施せよ!
- 放射線規制に明確な基準値を設定せよ!
- 地域ごと細かく放射線量の測定とともに、速やかに除染を実施せよ!

福島第一原発事故から5カ月経つても放射能汚染への心配は増すばかり。事故の収束が見えない現在、小さいお子さんをお持ちの親御さんの心配は、孫をかかえる私としても、人ごとではありません。しかしながら政府は「安全だ、問題ない」と結果しか伝えていません。我々に不信感を与えるものばかりです。今回は、放射能の基本的知識をまとめました。

1. 日常における放射線

私たちは、下表の様に放射線とは切っても切れない生活を送っております。

日本人が受ける自然放射線	1500 μ Sv/年 = 1.5mSv/年	※1000 μ Sv(マイクロシーベルト) = 1mSv(ミリシーベルト)
世界の人が受ける自然放射線	2400 μ Sv/年 = 2.4mSv/年	※実際に生活する上では、自然放射線量に今回の原発事故によって人工的に浴びる放射線量の合計の数値となります。
東京⇄ニューヨーク航空機往復	200 μ Sv/往復	※参考資料:放射線医学総合研究所HPより
胸のX線集団検診	50 μ Sv/回	

2. 学校における放射線規制

人工的に浴びる放射線について文部科学省は福島県内の学校等に対して4月19日の通達で、ICRP(国際放射線防護委員会)が定めた「非常事態が収束した後の一般公衆における参考レベル」(年間1~20ミリシーベルト)から上限の20ミリシーベルトを規制値として設定しています。

児童生徒等の生活パターンを16時間の屋内(木造)、8時間の屋外活動生活と想定します。
20mSv/年に到達する空間線量率は、屋外3.8 μ Sv/時間、屋内木造1.52 μ Sv/時間となります。 ※文部科学省HPより

この数値を上回った場合、校庭で遊ばせる時間を1時間以内にする、幼稚園・保育園の場合は、砂場で遊ばせないなどの対応をとるよう指示しています。ところが5月27日の通達では、福島県内の学校等に対し、学校で受ける放射線量(一日8時間で200日で計算)が年間1ミリシーベルト以下になるよう目標が設定されていますが、この数値が上回ったらどうするかという指示は出ていません。上記は福島県内の学校等に対しての通達であり、他県に対しての通達はでておりません。極めて曖昧で何を信じたら良いのかわからない状態です。

3. 放射線と食の安全

人体が浴びた放射線量(被曝線量)は「シーベルト」で表します。放射性物質が出す放射線の強さ(放射能)は「ベクレル」で表します。食品では「ベクレル」という数値が使われます。

食品に関しては、一定の数値を上回ると出荷を制限する暫定基準値を設けており、放射性ヨウ素の場合、水1kg当たり300ベクレル(乳児100ベクレル)、牛乳は300ベクレル、野菜類は2000ベクレル。放射性セシウムは水や牛乳が200ベクレル、野菜・穀類・肉・卵・魚は500ベクレルとなっています。一方、腐葉土、飼料には暫定規制値のような法的根拠がありませんでしたが、8月に入って暫定基準値を設定していますが、基準値の設定が遅すぎます。 ※農林水産省HPより

～日本の再興には将来のあらゆるリスクを想定した対策が不可欠だ!～

“ひろみち”は見た!

8月9・10日に石巻市・気仙沼市を再び訪問

被災者は本当に困っている。生活支援に本腰を入れるべき!!

＜ガレキ・ヘド口の早期処理を＞ ＜雇用問題など生活支援を＞ ＜仮設住宅への全員入居を＞
全てが遅すぎる！国が中心となって全力で復旧・復興を図ることが日本の再生へとつながる。



↑現在の気仙沼の状況と今までの市・県の対応についてヒアリング。特に仮設商店街を早期に実現したい旨訴えていました。



↑いつもなら海水浴客で賑わうが、浜辺にはコンテナが散乱している。



**皆様から頂いた善意を、地元名産の梨という形に変えて、
いまだ避難所生活をおくっている皆さんに届けてまいりました。**



水産工場が立ち並んでいた地域。地盤沈下→が激しく道路のかさ上げが終わったばかり。まだガレキの撤去が進んでいない。



↑いたる所にガレキの山。まだガレキの撤去が進んでいない地域が多い。2カ月前に比べてガレキは減ってはいるものの、まだまだ復興には程遠い。



↑半壊・全壊の個人住宅がそのままの状態。

←被災地としての現状と復興の要望についてヒアリング。特に働く場の確保を訴えていました。



↑津波で押し流され陸に上がったままの船。津波被害を忘れないためのモニュメントとして現存保存するか検討中。

～渡辺ひろみちプロフィール～

昭和25年8月 松戸生まれ

松戸市立北部小学校、第一中学校、千葉県立東葛飾高校、早稲田大学法学部卒業
明治大学大学院法学研究科修士課程修了
松戸市職員、会社経営

平成07年 千葉県県議会議員選挙初当選

平成08年 衆議院選挙初当選

*以降四期連続当選

平成21年 衆議院選挙にて惜敗

<主な議員歴>

経済産業副大臣 ・ 衆議院総務委員長

・内閣府大臣政務官 ・ 自民党総括副幹事長

*詳細はホームページをご覧ください。

自由民主党千葉県第六選挙区支部

渡辺ひろみち事務所

<http://www.hiromichi21.com>

〒270-2241

千葉県松戸市松戸新田373 ガーデンビレッジ111

TEL:047-369-2929

FAX:047-369-3939